

事業番号	414
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	図書館施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	図書館			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	図書係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		4 図書館を充実する				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	5	目	8	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市立図書館の設置及び管理に関する条例									
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	図書館が利用者にとって快適な空間であるために、建物及び設備の適切な維持管理を図る。									
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内の庭木管理、建物保守、空調・電気保安設備保守、光熱水費管理などを行う。</li> <li>・市側は、利用者への快適な環境提供のための建物や施設設備の維持に向けた、一般的な保守分野の仕分けと統率を行う。</li> <li>・建物機器、敷地内樹木、空調等に対する具体的作業は、高度な専門的技術を要するため、すべて民間へ委託している。</li> <li>・職員は、施設管理に係る契約事務や月々の履行確認、支払い事務、随時の施設点検、修繕等を行い、事業の適切な執行を管理している。</li> </ul> <p>※H24直接経費の内訳 光熱水費 7,739千円 図書館施設管理委託料 6,917千円 図書館設備保守管理委託料 3,008千円 修繕料 14,042千円 その他駐車場用地借上料等 1,967千円</p> <p>※H25直接経費の内訳 光熱水費 10,300千円 図書館施設管理委託料 7,164千円 図書館設備保守管理委託料 3,046千円 修繕料 5,750千円 その他駐車場用地借上料等 2,736千円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	22,885	22,979	33,673	28,996	
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,599	1,599	1,599	1,599
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	24,484	24,578	35,272	30,595		
	対前年比	%		100.3	143.5	86.7		
財源	一般財源	千円	24,484	24,578	35,272	30,595		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	開館日数	日	目標		307	306	308
実績				307	306	308	
修繕件数	件	目標		—	—	—	—
		実績		5	10	17	
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	現図書館(本館)年間貸出点数	千点	目標		390	390	390
実績				356	354	355	
事故発生件数	件	目標		0	0	0	0
		実績		0	0	0	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	貸出点数は目標達成に至らなかったが、築34年を超えている現図書館に必要な建物機器維持、空調設備保守等の管理を適切に行うことができた。 なお、平成24年度はエレベーターの改修等を行った。				
		事業実施における課題	建物の老朽化が進み、今後も適宜修繕を繰り返し、維持管理をしていかなければならない。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	修繕等の維持管理を行うことができず、建物の使用に危険が生じ、利用者の安全をそこなう。				
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	通常の施設管理に加え、自転車置場・空調配管の塗装、空調機の修繕を行う予定である。				
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの			
	判定理由	施設での事故発生もなく、利用者の安全を確保することができたと判断できるため。26年度から、図書館の休館日を週1日から月1日に変更し、開館日を増やすため拡大とする。					
	26年度以降の改善案	今後も修繕の繰り返しが予想されるが、総合的な施設管理につとめ、利用者への快適な施設の提供と建物の長寿命化を図る必要がある。26年度から、図書館の休館日を週1日から月1日に変更し、開館日を増やす。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	拡大	一次評価のとおり。